

こがねっと レポート

2021.7.30 発行
発行: 小金井・生活者ネットワーク
発行責任者: 田頭祐子

no. 144

小金井・生活者ネットワーク

検索

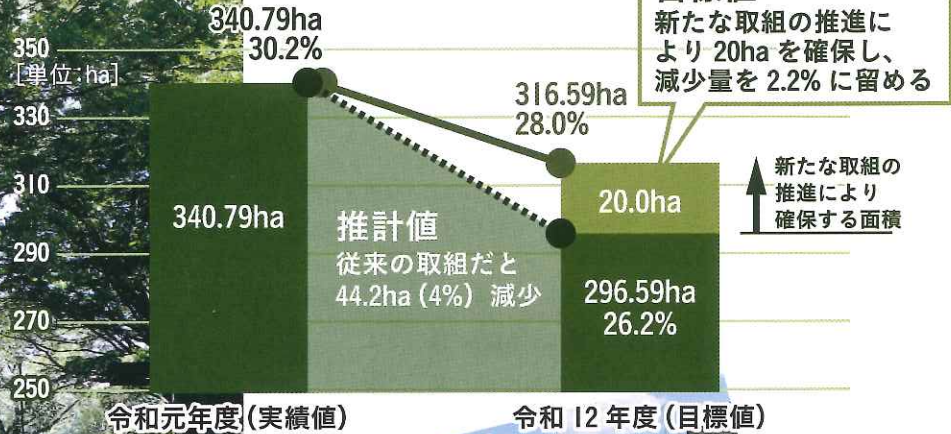
政治は
あなたの暮らしを
良くする道具です

日々の暮らしからの
声と市政をつなぐ、
あなたの声
をお寄せください。

小金井・生活者ネットワーク

失われる小金井市の みどりと都道問題

小金井市の緑被率の目標



◀近年市内のあちこちで見かける「事業計画のお知らせ」

今年3月に策定された小金井市みどりの基本計画には、今後10年で新たにみどりを保全する取り組みを行わない場合、約44haのみどりが減少し、現在30.2%である緑被率が、26.2%まで減少するとされています。また、農地は10年前から約15ha減少しており、生産緑地の指定解除の期限である2022年以降、さらに減少することは確実となっています。

(次ページに続く)

身近な畑や樹林地が宅地などに変わっていく。そんな風景が市内のあちこちで見られます。市の調査によると2009〜19年までの10年間で、小金井市では都立小金井公園の敷地のおよそ半分以上にあたる4053haのみどりが失われました。小金井市のみどりは、都立公園(小金井公園、武蔵野公園、野川公園)、大学などの私有地、生産緑地などが主で、小金井市が条例などで保全している緑地はほんのわずかしかなかった。

10年間で40haのみどりが消失

市議会議員
安田けいこ



市議からの
報告

144号目次

都道問題

10年間で40haのみどりが消失
—1,2面

都議選報告
—2面

化学物質と
子どもの健康
—3面

市民の
ツブヤキ
—3面

会計報告
—4面